

## 国際問題

世界はグローバル化が進んだことによって、大きなマイナスの面も発生している。国と国とのつながり方がより複雑になっているから、ひとつの国だけでは問題を解決することは不可能で、各国が協力しないと解決に向かって進めないことが、問題を大きくしている。いわゆる国際問題だ。

ここでは、次の4つの国際問題について知っておいてほしい。それは、「地球環境問題」「資源・エネルギー資源問題」「貧困問題」「新しい戦争」だ。

国際問題っていうと、なんだか途方もなく大きなことに思えるかもしれない。でも、結局のところ、問題を起こしているのは、僕ら人間だ。起きている問題を知ることが解決の第一歩だよ。

## この章のポイント!

「国際問題」のキーワード

- ① 地球環境問題と資源・エネルギー資源問題
- ② 貧困問題・新しい戦争

## 理解を深めるエッセンス★

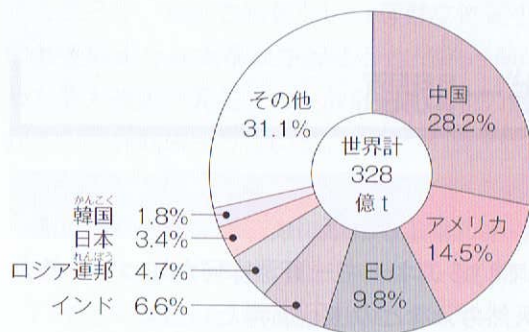
さまざまな地球環境問題の原因となっている地球温暖化。原子力にたよらない再生可能エネルギーの開発。急激な人口増加による世界の貧困問題や、地域紛争やテロリズムによる「新しい戦争」も起こっている。

## 危機的な地球環境

現在、地球環境は危機的な状況にある。森林伐採による砂漠化、自動車の排気ガスやばい煙などによる大気汚染や酸性雨の発生、フロンガスの排出によるオゾン層の破壊、地球温暖化、海洋汚染、絶滅の危機にある生物の問題など、問題だらけだ。地球を人間にたとえたら、全身病気だらけで傷だらけの状態といえる。

このような地球環境問題の中でも地球温暖化は、第1章の「グローバル化による課題」(P.13)でも勉強したように、いろいろな環境破壊の原因となる象徴的な問題だ。地球温暖化は、僕らの生活で排出される二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)などの温室効果ガスが増えて、大気中の濃度が高くなることによって起こる。

地球温暖化によって、多くの生物が生きていけなくなったり、農作物が育たなくなったり、干ばつや洪水などの自然災害が起こったりするなど、多くの被害が予想される。また、北極圏や南極大陸の氷がとけて、海面が上昇し、海拔の低い島国が海に沈んでしまう危険もある。



世界の二酸化炭素排出量  
(環境省「世界の二酸化炭素排出量(2017年)」より作成)



## 国際社会の取り組み

地球環境問題の解決のためには、国際社会の協力が不可欠だ。

1992(平成4)年には、**国連環境開発会議(地球サミット)**が開かれて、気候変動枠組条約や生物多様性条約などが結ばれた。気候変動枠組条約というのは、大気中の温室効果ガスの濃度を安定させて、地球温暖化を防止することを目的としたものだよ。

1997年には、気候変動枠組条約の締約国会議(COP)として開催された**地球温暖化防止京都会議**で、先進国に温室効果ガスの排出を減らすことを義務づけるという**京都議定書**が採択された。でも、アメリカは途上国に義務がないことを不満にすぐに抜けてしまう。日本も、中国やアメリカなど、大量にガスを排出する国が参加しないのは不公平で実効性もないと考えて参加をとりやめる。

そこで、京都議定書を引き継いだのが、2015年にCOPで採択された**パリ協定**だ。パリ協定は画期的な枠組みといわれているよ。途上国を含んだすべての参加国に、ガス排出削減の努力を求める枠組みだからだ。

ちなみに日本は、2030年度の温室効果ガスの排出を2013年度の水準から26%削減することを目標として定めた。これは、かなり高い目標だよ。

一方、2017年、アメリカは地球環境よりも自国の経済を優先すべきだと考え、トランプ大統領はパリ協定から抜けることを表明している。

テーマ

## 59 資源エネルギー問題

### 資源とエネルギー

世界でもっとも多く使われているエネルギー資源は何か知っているかな？ それは、石油、石炭、天然ガスなどの**化石燃料**だ。

**化石燃料は、全エネルギー消費量の8割以上を占めているんだよ。**これらの資源は、埋蔵量に地域的なたよりがあって、とることができる年数も限られている。

世界のエネルギー消費量は年々増えていて、特に近年では途上国の消費

量が急激に増えているんだ。そこで、このまま化石燃料にたより続けるのは限界があるということで、新たなエネルギー資源の開発が注目されている。商用化が進んでいる北アメリカのシェールガス、実用化に向けた試験がおこなわれている日本近海の海底のメタンハイドレートなどがあるよ。

### 日本のエネルギー事情

日本のエネルギー消費量は、産業部門が約半分を占めているんだけど、じつは1970年代からあまり増えていない。一方、家庭部門は、1970年代初めから約3倍も増えている。冷蔵庫やエアコン、電子レンジなどの電化製品が普及して、家庭で使う電気が増えたのが理由だ。

日本の電力は主に、**水力発電、火力発電、原子力発電**でまかなわれてきたのは知っているね。とはいっても、これらだけでは全然足りなくて、エネルギー資源の9割以上は輸入にたよっている。しかも化石燃料の価格は上がっているんだ。

そこで注目されてきたのが、原子力発電だ。

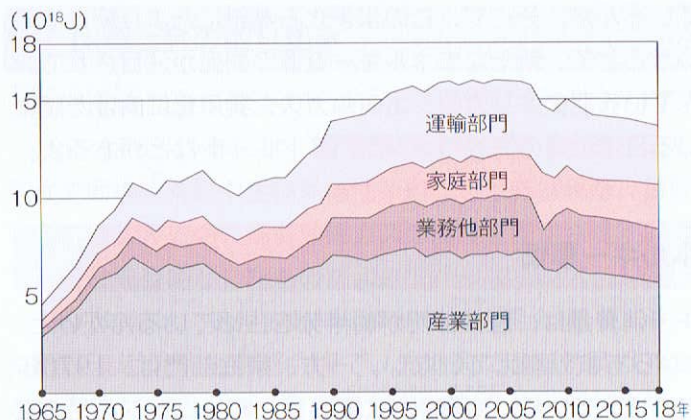
原子力発電は、電力の供給が大量に、しかも安定して供給できる。さらに、燃料をくり返し利用できるし、発電するときに二酸化炭素を出さない。そういうことで、原子力発電は環境にクリーンな夢のエネルギーとして国が力を入れて増やしてきたんだ。

ところが、放射性物質という有害な物質をあつかうため、東日本大震災のときのような大事故が起こると飛散と海洋流出を引き起こし、長年にわたる大被害が発生する。放射性廃棄物の最終処分場をどこに、どうするかという課題も残っている。

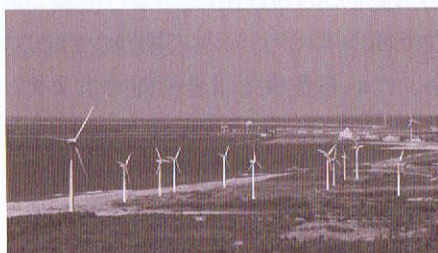
そして、現在、原子力にかわるエネルギーとして、太陽光、風力、地熱、バイオマスなどの**再生可能エネルギー**の開発が進められている。

バイオマスとは、生物由来のエネルギーで、木くずを燃やしたり、家畜のふん尿などを発酵させてメタンガスを発生させたりする発電だよ。ただ、現在の技術では発電などにかかる費用が高いこと、また、太陽光発電や風力発電は電力の供給が自然条件に左右されること、地熱発電は自然や観光施設との共存が必要であることなどの課題も残っている。





日本の部門別エネルギー消費量の推移（経済産業省「エネルギー白書2020」より作成）



【風力発電所】



【太陽光発電所】



【地熱発電所】



【木質バイオマス発電所】

テーマ  
**60 貧困問題**

世界の貧困問題

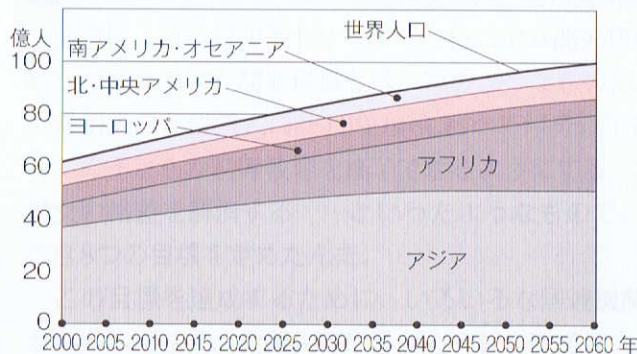
世界人口が急速に増えているのを知っているかな？

1950年に約25億人だったのが2000年には約61億人になって、2050年には95億人を突破すると予測されている。特にアジアやアフリカの途上国で人口が増えている、2050年には途上国の人口が世界の約86%になると予測されている。経済の発展も急激な人口増加には追いつかず、**貧困**状態の人が増えているんだ。

世界では人口の約10%が1日1.9ドル未満で生活している貧困の状態にあって（世界銀行2015年発表のデータによる）、国連開発計画（UNDP）は、貧困を「教育、仕事、食料、保健・医療、飲料水、住居、エネルギーなどのもっとも基本的なサービスを手に入れられない状態」としているよ。世界で特に貧困が深刻なのが、サハラより南のアフリカだ。

先進国の中でも経済格差が広がっていて、貧困におちいる人が増えている。

どうして貧困状態が引き起こされてしまうのか。それは、生まれた国、地域の産業の未発達や雇用不足、水道や電気などの社会資本の未整備、医療サービスの不足、社会保障制度の不備、教育を受ける機会の不足などが、複雑に重なり合っている。



予測される地域別の人口増加（「国連世界人口予測」より作成）



## 食料供給のかたよりと飢餓

世界には、栄養不足の状態が長く続く飢餓の状態の人びとが、途上国を中心に約8億人もいる。途上国の7人に1人が飢餓状態にある計算だ。

でも、じつは世界中の全員が食べるのに十分な量の食料は生産されているんだよ。ただし、その食料が、すべての人に公平にゆきわたっていない。先進国では食料があり余っていて、大量の食品が捨てられている。

この食料供給のかたよりが、**貧困**のいちばんのもとになっているんだ。



もし捨てられる食料がゆきわたっていたら、世界中の飢餓に苦しむ人がいなくなるんですね……。途上国の中には、農作物を育てる広い土地を持っている国もありそうですが、難しいのでしょうか？

うん、土地があったとしても、農業に必要な設備や技術が不足しているし、地球温暖化の影響で起きている大規模な自然災害や、地域紛争などもあって、急激に増えていく人口に生産が追いつかないんだ。

さらに、近年では、バイオ燃料に利用される穀物が増えた結果、食料価格がますます上がって、飢餓の問題がより深刻化している。

## 途上国の子どもと女性の問題

貧困の影響をいちばん受けるのは子どもたちだ。

途上国では、毎日約1万4500人の子どもたちが5歳の誕生日をむかえる前に死亡している（2018年現在）。

親をなくして路上暮らしをするしかないストリートチルドレンや、劣悪な環境で働かされている子ども、紛争地域では子ども兵（少年兵）として、戦いに参加させられている子どもも大勢いる。

世界には、学校に行けない子どもたちが学齢期の人口の約11.5%となる1億2300人いて（2017年現在）、特に途上国に集中している。

読み書きや計算など、社会生活に必要な知識や能力を身につける機会がないために、大人になっても不安定で収入の少ない仕事にしか就くことができず、貧困からなかなか抜け出すことができない状況だ。

子どもたちが学校へ通える環境を整えるという点から、学校や教師を十分に増やすなどの助けが必要とされているんだ。

子どもだけでなく、女性もまた貧困の影響を大きく受ける。

経済的な理由だけでなく、文化や宗教上の理由から女性を学校に通わせる必要がないと考える親もいて、途上国では女性の**識字率**（文章を読み書きできる人の割合）が男性よりも低い傾向にある。こうしたことから、途上国の女性は社会的に自立しづらい状況になっている。

## 貧困をなくすための取り組み

国連は、2001（平成13）年に「ミレニアム開発目標」というものをまとめた。ミレニアム開発目標とは、次のようなものだ。

貧困人口と飢餓人口を1990年に比べて半分に減らす・世界中のすべての子どもが初等教育を修了できるようにする・すべての教育レベルで男女の格差を解消する……といったようなもので、2015年までに達成すべき8つの目標を定めたんだ。

この目標を達成するために、いろいろな国連機関や加盟国、NGOなどが協力した結果、貧困人口や子どもの就学率では大きな成果があった。た



だ、十分に改善されない分野もあって、2015年に、ミレニアム開発目標を引きつぐ、「持続可能な開発目標 (SDGs)」<sup>エスディーエーゼーズ</sup>を採択<sup>さいたく</sup>して、2030年までに達成すべき17の目標を新たに定めた。貧困<sup>ひんこん</sup>と飢餓<sup>きが</sup>をなくすこと、教育を普及<sup>ふくまう</sup>させることなどの取り組みを、さらに進めようとしているよ。

貧困問題を解決するためには、援助<sup>えんじょ</sup>だけではなくて、人びとの自立をうながして、支える取り組みも必要だ。

たとえば、途上国の人びとが生産した農作物や製品を、**その労働に見合う公正な価格で取り引きをして、先進国の人びとがそれを購入することで生産者の生活を支える**という**フェアトレード**（公正貿易）が注目されている。

ほかにも、貧しい人びとが新しい事業を始めるために少額のお金を貸し出す**マイクロクレジット**（少額融資<sup>せうがくしゆ</sup>）という取り組みは、現金収入を得る機会を与えるなどの成果を上げているよ。

知っていますか？



途上国の貧困の原因のひとつに、生産した農作物や製品が、不当に安い価格で取り引きされてしまうことがある。適正な価格で継続的に先進国の人びとが商品を購入する仕組みのフェアトレードは、生産者の生活の改善と自立に役立って、貧困を減らすことに結びついているんだよ。

テーマ

## 61 新しい戦争

### 新しい戦争とは

かつて、戦争は、国家と国家の戦いを意味していた。

戦争の目的は相手国を軍事力で従わせて、植民地として領土を得ることだったよね。それが、第二次世界大戦後は、核兵器などの大量破壊兵器<sup>はくはく</sup>が発達して、相手国に攻撃<sup>こうげき</sup>をしかけると、自国もとんでもないダメージを受けることになるから攻撃しにくくなったことや、国際連合の存在から、国家間の戦争は起こりにくくなっている。

では、戦争がなくなったかということ、そんなことはなくて、形を変えて今でも戦争は続いているんだ。

たとえば、1990年代に起こったユーゴスラビア紛争<sup>ぶんそう</sup>のような**地域紛争**や、2001(平成13)年にアメリカで起こった同時多発テロのようなテロリズムだ。今までとは違う形の戦争は「新しい戦争」と呼ばれている。

地域紛争とは、第二次世界大戦のような大戦争ではないんだけど、国内やその周辺国を巻きこんで起こる戦争のことをいうよ。

紛争の原因としては、冷戦後、アメリカとソ連という2つの超大国の力でなんとか保たれていた秩序<sup>ちつじゆ</sup>が崩壊<sup>ほうかい</sup>して、異なる民族や異なる宗教を信仰している人びとの対立が表面化したことが挙げられる。

また、経済格差が拡大して、貧困状態や国の政治体制に不満を持つ人びとの暴力的行動なども紛争の原因だ。紛争の多くは、異なる民族や宗教を弾圧<sup>だんあつ</sup>したり排除<sup>へいじゆ</sup>したりする、**民族紛争**の形となっている。

紛争地域では、住んでいた土地を離れて周辺の国に逃げる**難民**が発生する。

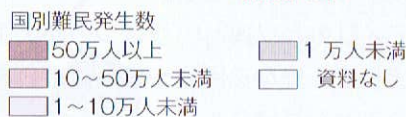
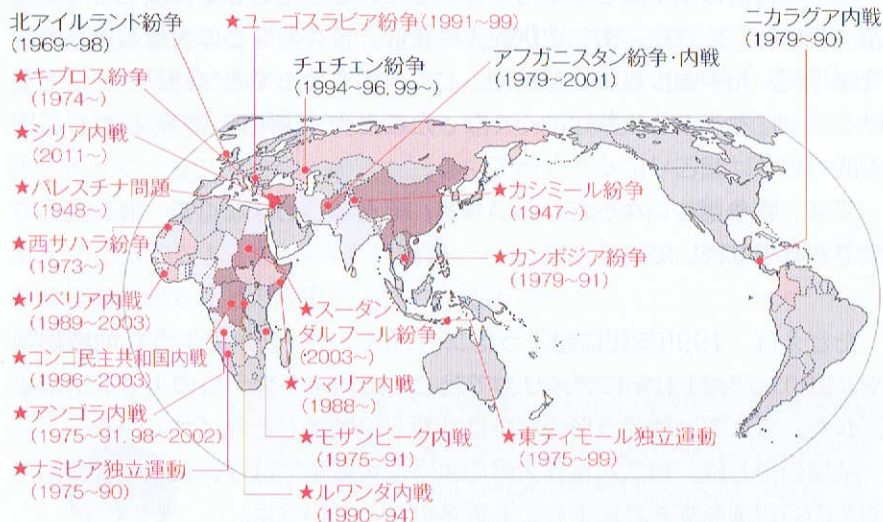
ただ、周辺の国も大勢の難民を受け入れることはできなくて、国境付近の難民キャンプで暮らさなければならない難民たちが今でも大勢いる。難民キャンプの多くは、食料や水、生活用品などを国際機関などからの援助にたよっていて、なんとか周辺国に受け入れられた難民の多くも、非常に



貧しい暮らしをしているんだ。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）は、各国に難民の受け入れを求めたり、難民の生活を改善したり、紛争後に故郷に帰って生活を立て直すためのサポートをしたりしているよ。

### 各国の難民生数と第二次世界大戦後の主な地域紛争 (UNHCR「グローバル・トレンドズ・レポート2018」ほかより作成)



★: 国連の平和維持活動(PKO)が展開された紛争

地域別難民数(2018年末まで)

アジア・オセアニア	421.5万人
サハラ以南アフリカ	633.5万人
中東・北アフリカ	269.3万人
ヨーロッパ	647.5万人
南北アメリカ	64.3万人

※難民に類似する状況の人の数も含む

## テロリズム

近年、特定の集団が武器を持って、敵対する国の軍隊や警察を攻撃したり、自爆テロによって、一般の人びとを無差別に死傷させたり、その国の代表的な建造物を破壊したりする行為も増えている。そうすることによって、相手に恐怖や動揺を与えて、自分たちの要求をアピールしようとするわけだ。

このような行為を**テロリズム**というよ。テロリズムの背景には、民族や宗教の弾圧や貧困があって、そのような問題に解決の見通しが無いことがあるといわれていて、組織化した武装集団が国境を越えて活動している。

地域紛争やテロリズムに対して、国連がそれを未然に防ぐために資金調達や移動を阻止するために国際協力を進めたり、アメリカなどが、軍隊を派遣して壊滅させようとしていたりしているんだけど、今のところ成功したとはいえない状態が続いている。

地域紛争やテロリズムを根本的に解決するためには、国どうしの経済格差や国内の貧富の差を改善していくための対策をとっていく必要がある。